

## Abstract

Due to the consolidation of Chiba Works, Kawasaki Steel, with Keihin Works, NKK, effected on April 1, 2003, the two works were reorganized into East Japan Works, consisting of Chiba Area and Keihin Area, JFE Steel. East Japan Works is being reborn as a competitive urban-type steel works with the establishment, in early stages, of the most optimum production systems environmentally compatible with its location in the Metropolitan area while satisfying rigorous product quality requirements. This report discusses the outline of East Japan Works with Chiba and Keihin Areas.

1.の新たなビジネスも展開している。以下、東日本製鉄所について紹介する。

## 2. 経営方針

東日本製鉄所の経営方針は、「夢のある強靱な製鉄所」の創造である。そのためにも中期経営計画で盛り込まれた利益計画（ROS 10%以上）の完全達成と高付加価値製品比率の大幅な向上が不可欠である。特に、Only 1, No. 1 商品の生産比率については、現状の7%程度から、2005年度末には、15%以上に拡大する計画である。東日本製鉄所は、両地区の最新設備と大都市立地を活かした最適生産運用と技術開発により、お客様ニーズを先取りした製品開発とデリバリーを実現する。またそれらにより、カスタマーロイヤルティを向上させ、お客様とともに繁栄しつづける製鉄所を実現する。

### 3.1 千葉地区

千葉地区は戦後の日本で最初に建設された銑鋼一貫製鉄所である。1951年に開設、1958年に第1冷間圧延工場が稼動し、銑鋼一貫体制を確立した。その後順次生産を拡大1969年に粗鋼600万トン/年にいったが、高度成長の終焉を期に減少に転じた。

1977年には、第3製鋼工場が稼動、日本初となる純酸素底吹き転炉を稼動させ、世界の注目を浴びた。1994年に、大リフレッシュ工事を実施、世界初のステンレス鋼溶融還元、エンドレス熱間圧延ミルの開発など、世界最高水準の生産性と設備を有する製鉄所として生まれ変わった。現在は薄鋼板関係の高付加価値製品を中心に、粗鋼450万トン/年の製鉄所として、高炉2基を稼動させている。

### 3.2 京浜地区

京浜地区は、1912年日本鋼管の発祥とともに発足し、1914年、継目無鋼管の製造を開始した。戦後の1958年には純酸素上吹き転炉2基を稼動、1969年には粗鋼生産量550万トン/年にいった。その後、福山製鉄所の生産拡大にともない京浜の生産量は減少したが、環境問題への対応、設備集約による競争力確保のため、1971年に扇島建設に着手し、1次ミルまでをすべて扇島にリプレース、大型高炉2基、粗鋼600万トン/年規模の国内最新製鉄所を完



## 5. 千葉地区の特徴

### 5.1 生産状況

千葉地区は、熱間圧延鋼板・冷間圧延鋼板・表面処理鋼板ステンレス鋼板 UOE 鋼管・鉄粉などを製造しており、2001年度の粗鋼生産量は422万トン、品種ごとの出荷量は、熱間圧延鋼板136万トン、冷間圧延鋼板129万トン、表面処理鋼板90万トン、うちステンレス製品は36万トン（西宮工場含む）である。

### 5.2 千葉地区の特徴

千葉地区は、「薄板と高級品に特化した、世界最強の競争力を持つ製鉄所づくり」をコンセプトにした大規模リフレッシュ工事（1991～1994）を実施しており、地域や環境との共生を目指した都市型製鉄所である。その特徴を以下に示す。

（1



